

シーン5

「ウェーイw 後輩ちゃん見てるー？w w w」

「後輩ちゃんんのオナネタの、メス穴人間に堕ちたセンパイと、アタシふたなり怪人マラピーチの、ドスケベビデオだよ♡」

「ピース、ピース、ダブルピース。あはセンパイ、アクメしてないのにアへ顔ダブルピースが板についてきたね♡ 今日の後輩ちゃんに、センパイの立派なメス穴人間っぷりを紹介しまーす♡」

「あれから、がながんファックして、センパイを完全洗脳したし。今でも記憶はあるけど、アタシと同じで、考え方が全然、変わっちゃってる♡」

「改造された最高の気分、みんなにも体験してほしいな。でも体験したら、二度と元に戻れなくなるかも。後悔しないって、保障はできるんだけどw」

「それじゃ恒例のオナネタ、はじまりはじまり♪」

「センパイ、行くね。カメラはこっちだよ。じゃ、キスから。んちゅ、ちゅ♡」

「センパイ、恥ずかしがってるの？ キスためらうなんて、もうすっかりメスだよね♪ だーめ、ベロをしつかりと突きだして、キスのおねだりだよ」

「そう、ちゃんどできてるじゃない」

「そんなセンパイの舌に、はふ、ご褒美のちゅばキスしちゃう。んちゅ♡ 表情がとろんとしてきて、感じてる♡」

「アタシもだんだん、キス気持ちよくなってきて、はふ。このままアタシのベロを、センパイの舌に絡めて、んれろ、れりゅ♡」

「ほら、舌の粘膜同士がぬちゅぬちゅ、いやらしく絡んで、最高に気持ちよくない？ センパイのおツユも舌も、んじゅじゅる♡ もっと頂戴、あふ、んちゅる、いっぱい唾液ですらせてえ♡」

「んふ、みんなの見てる前で、このままセンパイの舌をアタシの舌で押し込んで、ちゅぶ、お口の中、犯しちゃう。強引に舌を突きこんで、センパイのお口を」

「ぐちゅぐちゅかき回してえ、レイプキス♡ はふ♡アタシ、だんだん頭がぼうつて、してきひやったあ♡んちゅ、んれろお、アタシのツバもたっぷり飲んで、アタシもセンパイの貰うから、あふ、はふ、唾液の交換しよ、んじゅる♡」

「頭、とろとろでぼおっとしてる♡ センパイもアタシとのキスで、もっと感じて♡ もっと、気持ち良くなっている♡ 好き、好き♡」

「やっとなセンパイをアタシ好みに変えられた。もうセンパイのこと離さないよお、んちゅぶ、ちゅ」

「ずーっとメス穴人間として、飼育してあげちゃうから♡」

「ほら、アタシとセンパイのラブキス、みんなに見せつけちゃうし。ん、後輩ちゃん、ちゅば、んちゅ、見てる♡」

「あなたの大好きなセンパイは、アタシがメス穴ちゃんに洗脳改造して、完全支配♡しちゃってるし♡ さ、メス穴ちゃん、このまま四つん這いになって」

「そうだよ、ホント素直になったね。お尻まで、ふりふりして、アナルにふたなりオチンポが欲しいってカンジ？ 言わなくてもおねだりできて、マジ、えらい♡」

「たっぷりじらして、もっと欲しくなってるからのが、気持ちいいよ♡」

「でも、本当に切なそうだし、入れるかわりにお尻をアタシが舐めてあげるよお」

「ふーふー、息吹きかけただけで、穴がヒクヒク震えて、中に入れてもらいたがつってるし。まずは、んちゅ、剥きだしのお尻にキス♡ ちゅ、ちゅばッ♡」

「もっと沢山キスしてあげる♡」

「だって、アタシの可愛いメス穴ちゃんのお尻だし、んちゅば♡小ぶりなヒップの尻たぶにキスのシャワーするよ。ちゅッちゅッ♡ そしたらお尻の谷間に、れるお、舌をねっとり這わせて、上から下へ、んれろお、舐めていくよ」

「もちろんお尻の窄まりの上もね、れるろ♡ お尻の間、敏感だから、舐められて、感じてるんだ？ もう正義のリーダーとかじゃないし、お尻舐めで、」

「いっぱいアヘアヘ、声出しちゃっていいんだよ。れる、れる♡ このまま緩んだお尻の穴に舌を潜らせて、ん、んふ」

「アナルをたっぷりとかき混ぜていくね。ちゅぶちゅぶ♡ んふ、だんだん舌を中へ、中へ潜らせて、お尻の穴を拡張しながらあ、ちゅぶちゅぶッ♡」

「それじゃもっと奥へ、舌が半分以上、入っちゃってるし、んじゅぶ♡ 激しく舌で混ぜ混ぜするからあ♡ センパイのメス声、もっと聞かせて♡ じゅぶぶッじゅぶぶッ♡ んふ、そうだよお、その喘ぎだよ♡」

「お尻をいやらしくふりたくって、はあはあ、エッチな声♡ アナルをベロでほじくられるのも、すっかりクセになっちゃったってカンジ？」

「あふ。もうすっかりほぐれたから、アナル舐めはおしまい♪ じゃ、アタシのふたなり極太チンポを肛門にあてがって思い切り、んんんッ♡ 挿入していくし♡ んお、んお♡」

「一気に奥まで突っ込んで♡ はふ、ずっぼりと呑みこんじゃってる♡ 結構、ぶっといチンポなのに、スムーズに入って、さすがはセンパイのアナル、いやらしく拡がりすぎ♡」

「このままピストンしまくっちゃうよ♡ くふう、メス穴ちゃんのお尻まんこ、マジいい、良すぎだしッ♡ この締めつけに、絡み、もう完全に性処理用に改造されたアナルってカンジ♡」

「センパイとケダモノみたいにセックスするところ、画面の前のみんなも、ちゃーんと見てね」

「センパイもメス穴人間になったところを、お披露目だし」

「はあ、はう♡……んっん♡……はあ、はあ、はあ♡　んう、んうう、こうやって、もっと奥まで突き込んで、軽くアナルイキさせたげるから♡　ほらッ、イっちゃえ♡」

「お尻でイって、みんなにメス堕ちっぷり、見せてあげて♡　ほらほらほら♡　ほらあッ♡　イケ、イケイケイケ♡　イっちゃえ♡」

「バックから動物みたいに犯されてるところ、見られてアクメしちゃえ♡」

「ほらあ——ッ♡　お尻でイっちゃって♡　くふ、これでトドメだからッ♡　オチンポで気持ち良くなっちゃえ♡」

「んっうう——ッ♡」

「あは、下半身、ぶるぶるって震わせて、きちんと気持ち良くなれたね、センパイ♡　じゃあ、アタシもそろそろ、ん、んッ♡　出すよ♡　んふ、中に出して欲しいんだけど、それはお預け♡」

「その代わり、んん、オチンポ引き抜いてえッ、センパイにぶっかけてあげる、んふう、で、出る、オチンポからザー汁、ぶちまけひやう♡」

「んお、んっお——ッ♡」

「あ、あふ、まだ出るよ」

「センパイのお尻も、背中も全部、アタシの精液で白く染めてあげるから。センパイの身体、アタシのオチンポミルクで、ドロドロだし♡」

「それじゃあ、センパイ。射精したオチンポ、舐めて、綺麗にして♡　うん、そう、こっちを向いて」

「アタシが、んしよっと、ひざまずいてあげるから、四つん這いのままで、動物みたいにおしやぶりして。はふ、そ、そうだよ舌を這わせて、根元から先端まで綺麗に舐めて、精液の残りを舐め取って行って♡」

「そうそう、れろれろって、カリの張りだしも、裏筋も舐めて最後は唾液ごと、じゅるるって、すすってね。ん、んふ。先っぽから、お汁が溢れてきてるから。これも全部飲んで、ん、ん♡」

「ふふ、迷いなくお掃除フェラできて、センパイ、エライ、エライ」

「ちゃーんと頭撫でて、褒めてあげる。はい、なでなで、おりこうだね♡あんッ、褒められたからって、そんなに一生懸命、アタシのオチンポ、しゃぶっちゃダメ♡」

「褒められて、そのはしゃぎっぷりったら、まるで本物の犬みたいだし。センパイは人間でしょ。メス穴人間なんだから、忘れちゃダメ」

「ね、カメラの向こうのみんなも、センパイの堕ちっぷり、ちゃーんと楽しんでもらえるかなー？」

「アタシはこのまま、メス穴ちゃんの口まんこを楽しんじゃうよ。メス穴ちゃんの丁寧な奉仕フェラで、またビッキビキになってきたし♡」

「もちろん、オナネタにしてくれて全然OKだよさ、センパイ、口をあけて、喉の奥に思い切り、アタシの勃起チンポ、つつこんじゃうよ♡ んふッ♡」

「センパイの口、気持ちいい。入れるときに唇が擦れるのもだし舌のざらざらが絡んで、喉の奥が先っぽに当たって、コリコリしてこのままセンパイで、イラマチオさせてえ♡」

「息できないかもしれないけど、もうアタシ、我慢できない♡」

「腰が、んひ、んひい♡ 勝手に動いて、センパイの上のお口い、おまんこ遣いしひやう、んお、お」

「も、もうッ、出すよ♡」

「アタシのオチンポジュース、身体の中からどんどん溢れてきて、ふたなりチンポの内側を、あ、上がってくる、お、おう」

「出る、もう出ひやう。どろどろ熱々の、濃厚なミルク。センパイの、メス穴人間ちゃんのお口マンコに生射精しちゃうし♡」

「あ、あううッ♡」

「ん、んふ。出てる、ほら飲んで、アタシの生臭いザーメン」

「全部メス穴ちゃんに飲んでほしいの」

「そうよ、喉を鳴らして、こくこくって、飲み干して」

「う、ううッ、溜まった精液、オチンポから、じゅるるって、吸いあげられるの、たまらなく、気持ちいい」

「みんな、見て。イラマチオで生出した精子、メス穴センパイが飲んでくれてるし♡ センパイ、アタシが出したふたなり汁、ゼーんぶ飲んでやった」

「くふふ、すごーい優秀。すっかりメス穴人間に堕ちて洗脳改造、大成功♡ そうだセンパイに、ちゃんとザーメンのご褒美あげなきゃね」

「さつきはぶっかけだったけど、やっぱりアナルに直接、ふたなり精液欲しいよね。それじゃカメラで、センパイのアナルをドアップに写しまーす」

「もじもじしちゃダメ。センパイはメス穴人間のお手本なんだから、ちゃんとアナルをみんなに見せてあげないと♪ こんな風に、男の子も女の子も、みんな、組織のメス穴に改造してあげる♡」

「手で少し開くだけで、もうデカマラを迎え入れる準備い、バッチリすぎだし♡」

「じゃあ、このままアタシとセンパイのケダモノファックの続き、行くよぉ♡ んうッ、一気に奥まで入っちゃったぁ♡ お、おふ♡」

「ふたなりピストン開始い♡ センパイのおまんこ、ハメハメしまくっちゃいまーす♡」

「センパイもいっぱい喘いで、メス声聞かせて♡ むしろメス穴人間なら、無様なよがり声、みんなに聞かせる義務があるんだよ」

「ほらほらぁ、アナルの底お、S字結腸まで、かき回しちゃうからッ♡ はぁ、はぁ！……あ、んぁ♡……ん♡ んん♡ ふぁっ♡!!……ハアッ、ハアッ♡ ふうっ♡!!……はふ、ん♡……ハア、ハア♡ ハアッ♡!!」

「あは、結構、アへ声、いいカンジじゃん♡ そう、そうッ♡ メス穴ちゃんらしい、マジでいい鳴き声だし♡ 涎垂らして、もっといやらしいメス悶え♡ 聞かせて♡」

「ケツマンコもだいぶ濡れてきて、くふ、んふ、中でにゆるにゆるって、つるつる腸壁が絡んできて、はふ、最高の名器だし♡ 極太チンポを咥えた肛門からも、だからら透明なお汁漏らしてる」

「くすす、これがセンパイのラブジュースなんだ。興奮したら、どんどん愛液溢れて、もっとお尻でよがっちゃえるよ♡」

「メス穴人間のレベル、ガンガン上がりまくって、どんなぶっといふたなりでかき混ぜられても、アクメしまくっちゃえるね」

「あ、あふ、やっぱりセンパイにケツハメえ、マジ昂ぶる、昂ぶりすぎだし♡ 昔から知ってる大好きなセンパイ、立派なセンパイが、お尻貫かれて、メス乱れして、またいやらしくアクメっ、キメちゃうんだよね♡」

「ああ、センパイのイクところ、想像しただけで、アタシの中で、ザーメンたぎる、熱々に煮えたぎって、お腹のあたり、溶けちゃいそう。ん、んう♡」

「ぶりっぶりの精液、ふたなりタマタマの中でえ、たっぷり出来上がりまくりで、溜まりまくって♡ アタシの奥でぐっぐっ沸騰して、センパイのお尻まんこに、びゅっぐびゅぐ出せるの、楽しみすぎいい♡」

「ドロドロのマグマみたいなチンポミルク、射精されたら、もうメス穴ちゃん、イっちゃうね。ありえないほどのアクメしまくりで、壊れちゃうかも♡」

「ほら出すよ、お、んお、出すからね♡」

「ぶりゅっぶりゅの、濃厚なザーメンんんッ♡ チンポ先にまで上がってきてえ、センパイの中にぶちまけちゃうーッ♡」

「おっほおーッ♡♡♡」

「……あ、ああ。ああ、メス穴ちゃんも、ケツアナルで、しっかりイケたみたいだね♡
以前のセンパイだと考えられないぐらいのメス堕ち♡ みんなに、しっかりと見てもらえて良かったね♡」

「精液貰ったら、メス穴人間らしく、お礼言わないとね」

「それがマナーだし♡ さ、お礼、言って。出していただいて、ありがとうございます♡
っっ」

「くふふ、お礼ちゃーんと言えたね。じゃ、もっと大きな声で、みんなに聞こえるように、
ありがとうございますっ、言って」

「その間に、ご褒美代わりにッ♡ 激しくピストンして、中にも、外にも出してあげるから♡ お尻のハメ穴も、もっとぐちゅ混ぜして、たっぷり出してあげるから。んう、んうッ♡」

「くうっ！ んふう♡!!……んあ♡ ふあっ♡!!……んっ、んあっ、はう……はあ♡ はう……ん♡……あ、あっ、あー♡……ふぐう♡ 中に出した精液、ローション代わりにな
ってすっごい滑り、いい、いい♡ 気持ちよすぎいい♡」

「また出すからね、今度は外にぶちまけて、メス穴ちゃんにザーメンでお化粧してあげる♡ 出る、出るーッ。んふうーッ♡」

「さ、ぶっかけてもらったら、ちゃんとお礼言って♡ そうだよ。メス穴遣いされたら、感謝の心。これからはアタシだけじゃなくて、戦闘員さんや、他の一般のみんなにも遣ってもらおう、公衆便所みたいな、メス穴になるんだから♡」

「ん、んお、直腸が裏返るぐらいアナルをハメハメして前立腺も壊れるぐらい擦ってあげる♡ あ、あ、また精液上がってきて、ふたなりチンポから溢れる♡」

「センパイのお尻の奥にぶちまけひやうッ♡ んふおーッ♡ 出しすぎて、アナルマンコでセンパイ孕んじやうかも」

「センパイの直腸も、すっごいうねついてきて♡ アタシのふたなり汁欲しがってる♡」

「はふ、そうだ今度は妊娠できるように改造して、もっとメス穴人間化を進めちやおっか、ん、んッ♡」

「あれセンパイ、まだイキたりないってカンジ？ いいよッ♡ ほら、ほらほらほらあ、ほらあッ♡ 最大限勃起させた、デカマラで、センパイのお尻、ガバマンにしてあげるから♡」

「イケ♡ イケイケ♡ もっとアクメえ♡ 絶頂してえ♡ イキながら、イってイッて、イキまくって♡ おバカになるぐらいオーガズムして♡ アタシも出る、ぎっとぎとのふたなりザーメン」

「出すーッ♡ んっふおおおーッ♡」

「はい、アクメしたら、アへ顔をみんなに見せて♡ 両手でピース♡ あは、立派にできた。これで正義の味方から完全卒業」

「コングラッチュレーション♡ 組織の専用メス穴改造人間のできあがり♡ あの戦隊リーダー『蒼刃』くんも、ここまで洗脳改造されちゃいましたー♪ それじゃ、センパイにおめでとうのキス」

「んふ、ちゅぶ、ザーメンまみれのセンパイとの、ロまんこキス、素敵♡ ちゅ、ちゅば、んちゅぶ♡ もう、がつつきすぎだよ、メス穴ちゃん♪ ね、後輩ちゃんに、みんな、見てくれる？」

「もう『蒼刃』の面影なんて全然なくなっちゃってふたなりチンポに完負けしたセンパイ、かわいいでしょー♪」

「センパイもアタシも、最高の暮らししてるよー♪」

「でも元仲間が二人だと寂しいし、メス穴人間を増やしたいな。ね、いい考えだよね？」

「あ、センパイをメス穴ちゃんに堕としたときに、秘密基地の情報とかモロバレだし。あとは襲撃するだけだよね」

「このビデオ、もちろん録画だし♪」

「みんなが見終わったあとぐらいに、組織の怪人全員で基地を攻めてあげるから、見た感想聞かせてね♡ それじゃ、ちゅっ♡」